

# 運転に不安を 感じたら、 まず相談



高齢運転者による死亡交通事故が相次いでいます。国は来春から、運転免許更新時の認知症検査を強化しますが、認知症でなくても人は年齢を重ねれば身体機能や判断力が低下します。

運転免許試験場には、運転に不安な症状がある方やご家族からの相談を受ける窓口があります。電話による相談も運転適性サポートダイヤル☎045-366-9050で受け付けています(月～金。祝日を除く)。本人や家族が運転に危険を感じるようになったら、思い切ってお相談を。

# 人材こそ 科学技術立県 の原動力

今回、ノーベル医学・生理学賞を受賞した大隅良典博士は、基礎研究の重要性を訴えるとともに、研究者を目指す若者が減っていることに警鐘を鳴らしています。

県では来年、(公財)神奈川科学技術アカデミーと県産業技術センターを統合。新たに設立する産業技術総合研究所では、基礎研究、応用研究、実用化研究を切れ目なくつなぎ、新たなイノベーションの創出をめざします。

国内外から若く優秀な人材を引き寄せる研究ブランドを確立できるか、正念場です。



Asahi  
Policy  
Digest

神奈川県議会議員

おの でら 慎一郎 しんいちろう

月刊 おの でら 慎一郎 2016年12月号

〒241-0821 横浜市旭区二俣川2-58-12 Sビル2F

<http://www.onodera-s.com> <http://twitter.com/#!/onodylan>

ご感想をお聞かせください!◎Mail:info@onodera-s.com◎Fax:045(442)8101◎Tel :045(442)8100





# 県議会 定例会 より

## ■ 病院内の保育施設を開放へ、待機児童解消に向け神奈川県が方針

神奈川県は、待機児童解消に向け県立病院の院内保育施設を地域に開放する方針を明らかにしました。第1弾として、県立精神医療センター（横浜市港南区）で建て替え中の保育施設に、来年4月のオープンから地域の子どもの受け入れをします。公明党の代表質問に黒岩祐治知事が答えました。

質問では、神奈川など都市部では用地や保育士確保の難しさがあるため、定員に余裕のある企業内や病院内などの既存保育施設の有効活用が大事と指摘。県立病院機構が運営する県立病院の4保育施設の開放を求めました。

黒岩知事は院内保育施設について「医師、看護師を確保するのに欠かせない施設」とした上で、「地域に開放することは、待機児童解消に貢献できる有意義な取り組み。地域との交流の機会が増え、病院に対する理解や信頼感が高まる」との考えを示しました。

## ■ 障がい者の雇用促進に向け、一元化したポータルサイトを開設へ

精神障害者雇用が平成30年度に義務化されることを受け、就労支援の各種機関の業務内容などを分かりやすく発信し一元化していくことにより、障がい者雇用を効果的に進めていくべきと提案しました。

黒岩知事は、県のホームページに一元化したポータルサイトを開設したり、精神障害者等の職場での定着支援に取り組むと答弁しました。

## ■ 「県民スポーツ月間」を検討へ

県ではスポーツ振興条例の制定に向けた取り組みをしていることを踏まえ、子どものスポーツ活動の推進を位置づけるとともに、「県民スポーツ月間」を設けるべきと提案。黒岩知事は、「今後、ラグビーワールドカップやオリ・パラの開催などを契機に、スポーツへの関心が大いに高まることが期待されることから、条例では、取組の期間をさらに広げた『県民スポーツ月間』を設けることを検討していく」と答弁しました。

## ■ 子どもの貧困対策、スクールソーシャルワーカーを拡充へ

子どもの悩みに応じて、家庭や学校、児童相談所などと連携しながらサポートする「スクールソーシャルワーカー（SSW）」は、子どもの貧困対策を進めるうえで、大きな役割を担っています。これまで、神奈川県においてもSSWを積極的に導入してきましたが、市町村からは拡充を望む声が多く聞かれます。

そこで一般質問で、桐谷教育長にSSWの拡充や、市町村との連携を提案。

これに対し、桐谷教育長は、「今後は、例えば市町村のSSWが日常的な支援を行い、県は重篤なケースに対応するといった役割分担を検討するなど、各地域の実情に応じた最も効果的な体制を整えていく」と答弁。さらに、「そうした連携の基礎となる配置の拡大についても検討していく」と述べました。